

Book Review



歯科医院力を高める 保健指導実践ガイド

深井 獲博 著

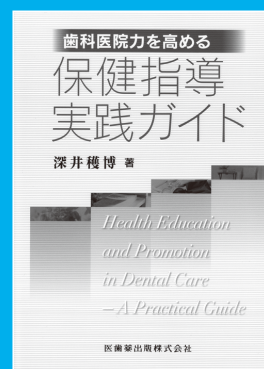


Reviewer

吉野 浩一 Koichi Yoshino

(東京歯科大学衛生学講座客員准教授)

A5 判, 164 頁
定価 (本体 3,600 円+税)
医歯薬出版刊



2011 年 8 月 10 日に、「歯科口腔保健の推進に関する法律（歯科口腔保健法）」が公布・施行された。歯科単独の法律としては 56 年ぶりの制定である。また、都道府県および市町村の歯科口腔保健条例の制定の動きが急速に広がってきている。法制的な基盤が整いつつあるなかで、歯科医院は今までと同じような診療のスタイルでよいのだろうか？ 口腔保健の変化にどのように対処すればよいのだろうか？ そのような疑問の答えが本書のなかにある。

著者の深井先生は、1997 年に東京歯科大学衛生学講座において高江洲義矩名誉教授の指導の下で歯学博士を取得された。その時のテーマは「わが国の成人集団における口腔保健の認知度および歯科医療の受容度に関する統計的解析」であった。その後も研究を続けて、ついには深井保健科学研究所を設立してしまった。現在、口腔保健行動を専門とするわが国の第一人者であ

る。そして、満を持して書かれたのが、この『保健指導実践ガイド』である。

口腔の保健指導の重要性は従来から指摘されており、主に歯磨き指導やシュガーコントロールが、今までの歯科での保健指導の中心になってきた。近年、口腔と全身や口腔と生活習慣の関連が指摘されるようになってきたが、そのための教育やエビデンスが不足しているのが実際のところである。そこで、歯科医院で実際に指導する際に参考となるような書が必要であり、それを主な本書の目的としている。

本書は 6 章に分かれており、歯科口腔保健をめぐる社会的背景、口腔保健と全身との関連、地域および歯科医院における保健指導の実践、行動科学およびコミュニケーション学に基づく保健指導の理論と技法、これからの歯科医療・口腔保健の展開、をとりあげている。各章のどこから読んでも理解しやすい構成になっている。さらに索

引もしっかり掲載されているので、必要に応じて項目を適宜探すことができる。

また、本書の特徴として、近年のわが国の健康政策や歴史、口腔保健に関する理論が解説されている点がある。国の方針や政策が丁寧に記載されており、さらに、口腔保健に関する文献はほとんど網羅されていると言っていいほどであり、研究者にとっても手元に置いておきたい一冊である。本書は、臨床家にとってのいわゆる How to 本ではない。臨床家は、自院での保健指導に本書を参考にしつつ見直し、自分の歯科医院に合う形で改善・実践していくべきである。

本書には、今後の院内か地域での保健指導を改善していくうえで、たくさんのヒントが隠されている。先生方が理解を深めるために格好の本であり、口腔と全身に関する保健指導を実践していくうえで欠かせない本である。